

校訓	盡己	令和2年度学校通信 「松崎中だより」 第7号	発行日	令和2年8月31日
教育目標	すべてのことに全力で取り組む生徒の育成 「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 佐藤 幸宏

毎朝鳴いていた蝉の声もいつしかコオロギやキリギリスの声が入り混じり、また田んぼの稲穂も緩やかな曲線を描き出し、秋の訪れを感じるようになりました。今日は1学期最後の日、そして明日が2学期の始まりの日というこれまでとは異なる節目を迎えます。1学期1・2年生は54日、3年生は59日登校し学校生活を送りました。この期間を長く感じたか、短く感じたかは人それぞれですが、新型コロナウイルス感染症対策に係る「新しい生活様式」が、私たちのものの見方・考え方を大きく変えたのはまぎれもない事実です。6月の学校再開に伴い、学期の設定変更、総合体育大会や行事などの中止・縮小が示され、年度当初に立てていた「目標」も大きく変わる事となりました。登下校、授業、服装、集会、部活動など、既存スタイルを見直し、新たな形を創り出すことが求められる時代となっています。3年生の学年通信に掲載された生徒作文「1学期を振り返って」には、「夏休みの宿題が意外と少なかったので、1、2年の頃の復習がたくさんできました。」「1学期で一番楽しかったことは、今まで通りの生活に少しずつ戻っていき、友達と思いきり笑い合えたことです。そのときに感じたのが『あたりまえに感謝』ということです。気づけていなかったことが、気づける日々でした。」と記す人がいました。今年度、特に3年生にとって、行事等の中止の報は、何とも辛い、悲しい想いを抱かせたことと思いますが、それをしっかり受けとめつつ、前向きな歩みをあらゆる場面で後輩たちに示そうとする姿には力強さを感じます。中学校総合体育大会の代替として開催された交流大会。県大会出場を目指していた3年生が、臨時休業中に全国や近畿、県大会の中止の報を聞き「目標」を見失いかけてました。しかし、その代替としての市交流試合の開催が学校再開後に決まったことに感謝し、「目標」を変更して取り組みました。その人は作文に、「コロナで休みがあったからこそ、こういう気持ちになれたんだなと思った。」と締めくくっていました。こうした姿の陰には、保護者の、地域の、そして先生方の支えがあったのは言うまでもありません。「目標」は、その時の状況により変化するのですが、掲げた目標に向けて努力を惜しまず困難に立



ち向かい日々練習を積み重ね、取り組むことにより達成されるものです。達成までの道は遠いものですが、それに向けた営みは尊いものでもあります。そしてその「目標」がいつしか「通過点」となったときに、初めてその人は成長を実感するのです。今後の大きな変化に順応しながら、設定した「目標」に向かって日々取り組んでほしいと切に願います。

令和2年度1学期「盡己賞」

「盡己賞」とは、松崎中学校の校訓「盡己」に因み、平成29年度からつくられた賞です。分野を問わず、日々の学校での活動において優れた取組を行っている人の努力をたたえ、皆さんに紹介し模範とすることで、松崎中学校をよりよくしていくことを目的としています。

1学期の「盡己賞」受賞者は、3年6組の小松瑞くんです。新型コロナウイルス感染症の影響で社会全体が大変な状況にあり自分のことだけでも精一杯という人も多い中で、小松くんは、伊丹市障害者福祉センター等の福祉施設に行き、資料印刷や製本作業等のボランティア活動に積極的に参加し頑張ってくれました。各会代表の方からもお礼とともにご報告をいただきました。学校内でも、授業や係活動、清掃活動など一生懸命に取り組み、周囲の大変よいお手本となっています。その功績をたたえ、「盡己賞」を贈ります。

新型コロナウイルス感染症予防に向けて！

- ・毎朝の検温、記録により風邪症状の有無等の確認
- ・石けんを使ったこまめな手洗いの徹底
- ・咳エチケットの徹底（場に応じたマスクの着用）
- ・健康管理（十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事）
- ・不要不急の外出を控える
- ・三密（密閉、密集、密接）を避ける

